

日本通訳学会第4回年次大会 報告

日本通訳学会第4回年次大会が、2003年9月23日（火）に神戸研究学園都市大学交流センターで開催されました。当日は国内外から多数の参加者があり、盛会のうちに無事終了することができました。開催校の神戸市外国語大学、および船山仲他先生を始めとする実行委員の皆様方、また準備段階から当日の受付および会場整理まで、さまざまな雑務を引き受けてくださった会員有志のみなさまに、この場を借りてお礼を申し上げます。

今大会は、韓国外国語大学校通訳翻訳大学院で教鞭を執られ、同時に韓国国際会議通訳学会会長も務めておられる Dr. Choi JungWha をお迎えして、セレスコビッチの「意味の理論」について講演をお願いすることができました（本誌 pp. 1-15 に本講演に基づく書き下ろし論文が掲載されています）。チェ博士は、直接、セレスコビッチの薫陶を受けられた方でもあり、このトピックについてお話を伺うに最適の方であると思われます。当日は、限られた時間内に、たいへんわかりやすく「意味の理論」の概要をご説明いただくことができました。また、韓国語による講演を立派な日本語に同時通訳していただいたチェスナさんにもお礼を申し上げます。

チェ博士による基調講演に引き続いて、会員総会が開催されました。総会は定足数を大きく超える出席および委任状の提出を得て無事成立し、理事会より学会運営に関する各種報告が行なわれました。なお、理事会から、今回のチェ博士の講演を契機に、韓国国際会議通訳学会との学術協力協定を締結することになった旨の報告があり（添付資料 2）、総会后、協定調印式を執り行いました（添付資料 3）。

また、本大会に先立ち、関西支部有志による「コミュニティー通訳研究分科会」設立の申請があり、提出された「設立趣意書」（添付資料 4）に基づいて理事会にて審議の結果、これを承認することとなりました。

午後からは会員による研究発表が行われました。今回は2会場に分かれて計8つの発表がありましたが、とりわけ司法通訳・法務通訳翻訳関連の発表が多く見られたのが特徴的でした。発表後の質疑応答も活発で、充実した大会になったと思います。発表者、コメンテーター、および裏方としてご苦勞いただいた関係者の皆様へ、改めてお礼を申し上げます。（文責：編集部）

添付資料 1 日本通訳学会第4回年次大会プログラム

添付資料 2 MOU 署名までのいきさつ

添付資料 3 MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

添付資料 4 日本通訳学会「コミュニティー通訳研究分科会」設立趣意書

添付資料 1

日本通訳学会第4回年次大会プログラム

2003年9月23日

10:00-12:00 <特別講演>

題目：セレスコビッチの「意味の理論」

講演者：Dr. Choi JungWha（韓国国際会議通訳学会 会長）

場所：セミナー室 (4)（韓国語の講演に同時通訳が付きます）

12:00-13:00 <会員総会>

場所：セミナー室 (4)

注：総会后、韓国国際会議通訳学会との学術協定調印式が行われます。

14:00-17:00 <研究発表>

A 会場：セミナー室 (1)

(A1) 14:00-14:40

題目：「米国民事訴訟における日本語通訳者の役割」

発表者：武田 珂代子

コメンテーター：津田 守

(A2) 14:40-15:20

題目：「日本のコミュニティー通訳 地域社会におけるニーズと通訳者育成への課題」

発表者：金澤 眞智子

コメンテーター：西村 友美

(A3) 15:40-16:20

題目：「司法通訳制度国際比較研究 ヨーロッパ諸国とオーストラリアを中心に」

発表者：水野 真木子

コメンテーター：津田 守

(A4) 16:20-17:00

題目：「法務通訳翻訳の世界 その多様性と将来性」

発表者：渡辺 由紀子

コメンテーター：田中 深雪

B 会場：セミナー室 (3)

(B1) 14:00-14:40

題目：「日中通訳教材開発について」

発表者：劉 麗華

コメンテーター：永田 小絵

(B2) 14:40-15:20

題目：「認知英文法から見た同時通訳の方略」

発表者：佐藤 芳明・河原 清志

コメンテーター：鍵村 和子

(B3) 15:40-16:20

題目：「同時通訳における on-line の訳語選択と accessibility」

発表者：南津 佳広

コメンテーター：三島 篤志

(B4) 16:20-17:00

題目：「通訳プロセスの分析と理論的背景 認知心理学的観点から」

題目：宮崎 操

コメンテーター：染谷 泰正

17:30-19:30 <懇親会>

2003年9月24日

10:00～12:00 ワーク・ショップ：「意味の理論と通訳教育」（使用言語は英語です）

23日の特別講演に引き続き、チェ先生を囲んで座談会形式で通訳教育全般に関する意見交換をします。

会場：神戸研究学園都市大学交流センター特別会議室

添付資料 2

MOU 署名までのいきさつ

(総会報告資料)

韓国国際会議通訳学会 (KSCI) と日本通訳学会 (JAIS) がこのたび、MOU (Memorandum of Understanding) をとりかわすことになったきっかけは、2002年9月7日に韓国外語大学校通訳翻訳大学院で行われた KSCI 主催のシンポジウムに、JAIS の近藤正臣会長がスピーカーとして招待されたことでした。KSCI のチェ・ジョンファ (Choi JungWha) 会長は AIIC (国際会議通訳者協会) の活発なメンバーですが、AIIC を通じて近藤会長のことを知り、発表の打診があったものです。同じく JAIS 理事であり AIIC 会員でもある鶴田知佳子も、そのときたまたま韓国外語大学校・通訳翻訳大学院の訪問調査を予定していた日程とあわせ、韓国にいたこともあり、チェ会長の招きにより、パリ第三大学のルデレール教授の発表コメンテーターをつとめました。

このシンポジウムの席で、チェ会長と近藤会長の間で、韓国と日本の間の通訳研究・通訳教育の分野で協力できないだろうかという話がもちあがったのが、今回の MOU 署名にいたる発端です。具体的な案としてそのときに出たのが、互いの大会・総会、シンポジウムへの出席と、相互の学会誌への論文掲載および情報交流等でした。

KSCI は 1998 年に設立され、現在、およそ 150 名の会員を有しています。韓国外語大学校・通訳翻訳大学院の教授であるチェ会長およびイム・ヒャンオク (Lim Hyang-Ok) 総務理事という、パリ第三大学の通訳翻訳大学院卒業生であり、AIIC 会員でもあるお 2 人を中心に、大学院課程で通訳・翻訳コースを開講している大学院、および学部課程で通訳・翻訳を教えている大学の教授陣によって運営されている学会です。

学会誌を 2 種類出していますが、すでに日本通訳学会からの執筆協力が始まっています。ひとつは韓国国内向けの CIT (*Conference Interpretation and Translation*) で、6 月発行の号に日本通訳学会の柴原会員がすでに BBC と NHK の放送通訳について執筆されています。もうひとつがパリ大学と共同で出している国際版学会誌 FORUM で、今年 1 月号には近藤会長が昨年秋の発表内容を掲載し、次号には JAIS の河原清志会員と鶴田知佳子会員が共同で論文を掲載予定です (すでに提出済み)。日本通訳学会の学会誌にも、いずれ韓国国際会議通訳学会から投稿いただけるのを心待ちにしているところです。(文責: JAIS 鶴田知佳子/KSCI チェ・スナ)

韓国国際会議通訳学会との学術協力協定書

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

This is a Memorandum of Understanding between the Korean Society of Conference Interpretation (hereinafter referred to as “KSCI”) and the Japan Association for Interpretation Studies (hereinafter referred to as “JAIS”).

In view of the growing interest in research in the field of interpretation and translation in Korea and Japan, the KSCI and JAIS deem that closer and structured cooperation and coordination between the two organizations would benefit them both.

As such the KSCI and JAIS agree to provide assistance whenever possible in the following areas:

1. writing articles for their respective journals, for example, *Conference Interpretation and Translation, Forum and Interpretation Studies*;
2. encouraging participation in each other’s activities;
3. exchanging information and providing research materials when requested; and any other methods of cooperation.

The KSCI and JAIS estimate that such cooperation will stimulate and deepen research in the field of interpretation and translation.

This MOU shall come into effect upon signature and be valid for three years thereafter, and will be automatically renewed for another three-year period, unless either of the two parties gives the other 60 days’ prior notice in writing of its intention to terminate the MOU.

Date _____

Date _____

(Signature)

(Signature)

Dr. Choi Jungwha

Professor Torikai Kumiko

President

Acting President

Korean Society of Conference

Japan Association for Interpretation

Interpretation

Studies



韓国国際会議通訳学会・チエ会長と日本通訳学会・鳥飼玖美子会長代行による調印式

(資料) 韓国国際会議通訳学会 学会誌への投稿要領

日本通訳学会 (JAIS) と韓国国際会議通訳学会 (KSCI) との間の協力協定により、両学会の会員は、それぞれの学会誌に任意に投稿することができるようになりました。KSCI は国内版学会誌 *Conference Interpretation and Translation (CIT)* および国際版学会誌 *FORUM* をそれぞれ、年2回発行しています。

執筆期限はCIT が5月中旬と10月中旬、FORUMが 7月中旬と1月中旬です。使用言語はCIT が英語、FORUM は英語ないしフランス語です。FORUM に英語で執筆した場合はフランス語の要約が、フランス語で執筆した場合には英語の要約がそれぞれ必要です。いずれも長さは 25ページ以内で、要約部分は 200 語。ほかに、キーワード 5 語を示すこと、執筆者について 5 文以内の短い紹介を巻末に加えること、投稿原稿は少なくとも2人の匿名審査員による審査を経ること、などの規定があります。詳しくは KSCI のホームページ (<http://www.ksci.or.kr>) を参照してください。

添付資料 4

日本通訳学会「コミュニティー通訳研究分科会」設立趣意書

(総会報告資料)

1980年代、バブル景気に引き寄せられて多くの外国人が来日したところから、「内なる国際化」という言葉がよく使われるようになってきました。そして、地域社会の中に外国人が共に暮らすようになり、日常生活の様々な局面で言葉の問題が浮上してきました。教育の現場で、公共サービスに関して、そして医療の場、司法の場で、言葉が通じない外国人が不利益を得ている状況が多く報告されました。

そんな中で、通訳者の果たす役割に光が当てられ始め、最初に問題として取り組まれたのが司法通訳でした。1990年ごろからの各方面での意識の高まりの中で、制度化に向けて国が動き始めています。そして、現在、注目されているのが医療通訳です。問題意識を持った人たちが、いくつか情報交換や研修の場を設け、この問題に取り組んでいます。このような背景のもと、コミュニティー通訳という言葉が使われるようになり、この分野での学術研究も始まっています。

これまで、日本では通訳といえば会議通訳という意識が強く、通訳論の研究も会議通訳を中心にしたものが多かったようです。これからは、コミュニティー通訳も一つの研究分野としてアカデミックなレベルにまで引き上げ、社会の認識を高めていく必要があると思います。

以上の理由で、日本通訳学会の中に「コミュニティー通訳研究分科会」を立ち上げ、この問題に取り組んでいる人たちのための、学術的レベルでの意見交換と研究の場を作りたいと思います。

活動内容（案）

- ・ 医療、司法などの専門分野から講師を招き、現状について話をしてもらい、意見交換をする機会を設ける。
- ・ 海外のコミュニティー通訳問題について知識を深めるための輪読会を行う。
- ・ 研究分科会として年次大会等での研究発表を行う。

発起人：水野真木子・鍵村和子

賛同者：船山仲他・笠原多恵子・玉井健・南津佳宏・西堀弥恵・西松鈴美・吉住和子